

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100799		
法人名	株式会社アイム		
事業所名	グループホーム健康倶楽部新座		
所在地	埼玉県新座市中野1-5-5		
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネジメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年1月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの理念は「あなたに寄り添います」です。職員は入居者様に寄り添い、入居者様の思う「暮らし」について、日々考えながらケアをしています。一見驚かされる行動であっても、問題行動とひとくりにせず、行動の真意について皆で考え、日々のケアにつなげています。様々な入居者様と出会い、その「暮らし」を考えることで、職員自身も、人間として成長させて頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所理念や行動指針が職員に徹底され、利用者により寄り添い、個々の生活リズムや好みを大切にされたケアが行われている。お花見などお弁当利用時には、チラシの中から好きなメニューを自由に選んで頂いたり、お茶の時間にはそれぞれの好みの飲みものを提供されるなど、気配りされた利用者本位のサービスが実践されている。
- ・ご家族アンケートでも「家族、知人が訪ねた時に必ずお茶を入れていただいたり、気配りが素晴らしいと思います」、「家庭的によく介護をしてくれていると思います」等のコメントがあり高い評価が得られている。
- ・目標達成計画の達成状況については、災害時協力者の確保に向け、日常の散歩など外出時には近所にお住まいの方々や挨拶を交わされたり、事業所や地域の行事で住民の方々との交流を深められるほか、家族や運営推進会議メンバーとの合同訓練を行なうなど、多くの理解者を得るよう継続的に取り組まれている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様と職員の共同生活の場」という理念をかかげている。共同生活の場所づくりを通し、「地元」での変わらない生活のお手伝いをしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念や行動指針などがつくられ、管理者と職員はそれらを共有し、利用者が地域の中でその人らしく、笑顔で、ゆっくりと楽しく日々過ごされるよう、気配りされた利用者本位のサービスが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お客様と散歩に出れば、近所の方と立ち話をしたりと、地域との自然な関係が築けている。ホームでのイベントにお誘いしたり、野菜を頂いたりといった近所付き合いがある。	地域の夏祭りや交流サロンに参加する他、歌や踊り、書道や楽器演奏、各種ボランティアとの交流など、地域の方々とのふれあいの機会を多く持つ事ができるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所様と、認知症ケアについて話す機会がある。認知症の方とどう関わっていくか、ひとつの考えを地域に提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、身近なケアの悩みなどで盛り上がることが多い。意見交換を通し、双方がケアの質を高めている。	定期的に開催され、事業所からの報告のほか、参加者からも意見・提案が行なわれ、介護事故対策や事業所特性、地域との関わりなどの話し合いが持たれ、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があれば必ず報告し、アドバイスも頂いている。隠し事の無い関係が、市町村と信頼関係につながっている。	報告、連絡、相談などの機会のほか、地域のニーズや課題など情報交換の機会やセミナー受講時にも市担当者とのコミュニケーションを図られ、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	掲示物や勉強会を通し、スピーチロックまで含めた身体拘束の防止への意識を高めている。	内・外部の研修を活かし、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの取り組みが行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	掲示物や勉強会を通し、なぜ虐待が許されるものではないのかという所から話し合い、防止につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、玄関にパンフレットを置くなどして、家族への情報提供をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、十分な時間をかけて契約書と重要事項説明書の説明を行っている。入居後も、必要があれば何度でも説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の意見箱や施設の相談係、市町村の相談窓口をお知らせしている。またご意見に対しては職員会議の議題につなげている。	利用者については、日頃の関わりの中で、家族とは運営推進会議や面会時などで意見・要望の聴き取りを行なっている。意見や要望については職員間で話し合い、運営に反映されている。また、独自の家族アンケートの実施についても今後の課題として検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員を対象とした会議を、毎月、ユニット毎と全体にて開催している。収集された意見や話し合いの結果を、管理者や代表取締役で検討し、よりよい施設運営につなげている。	定例会議や個別面談時などで意見・提案を聴きとられている。言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、個別ケアの他、省エネ対策や食事づくりなど、事業所運営やサービス向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員で、定期的に自己評価(シート)に取り組んでいる。このような目標設定と評価の機会を設け、個人はもちろん、全体としての技術・意識の向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行い、職員自身がもちまわりで講師を担当する。教えられるだけでなく、調べて発表する機会を作っている。また、(外部の)研修の告知を公開し、必要があれば管理者から勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームを見学する機会がある。同時に職員同士が話す時間を設け、意見交換の場としている。導入出来るアイデアを自ホームに持ち帰ってケアの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人(家族)より生活暦をお伺いするが、その中から要望や悩みを探っている。それを入居後のケアに積極的に生かし、入居者様の希望する生活の実現につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも、自身の目でホームを見ていただき、何度でも相談に乗らせていただいている。入居前に疑問を解消していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設のサービスはもちろん、介護保険制度や自立支援という考え方までお伝えしている。入居(予定)者様のニーズに本当に合致しているかを、ご家族様・職員(・本人)で検討している。必要があれば、他サービスの検討も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性をふまえ、入居者様に家事を手伝って頂いたり、職員とともに共同生活の場を作りあげている。入居者様自身が、ホームにとって居なくてはならない大事な方と意識して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様は、入居者様の過去を一番知っている方々であり、来設時等に思い出話や暮らしぶりをお伺いし、ケアに生かしている。この意味で、共に支える同士とも言える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が大切に思う方は、職員にとっても同様である。笑顔でお迎えするなど、歓迎する雰囲気を作り出している。実際に、ご家族様やご親戚はもちろん、お友達もよく来設されている。	知人・友人の来所、手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、馴染みの店で髪染めたり、買物、食事などに出かけている。その他、デイサービス利用者との交流、地域交流サロンに出かけ、馴染みの方々と交流されるなど、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事を共同で行ったりと、共にすごす仲間という意識を持っていただけるような機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば、入院中の洗濯等の支援を行っている。退去後も、ご家族様との手紙のやりとりなど関係が続いている。介護業界の一員として、相談に乗らせて頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、ご本人(ご家族)の要望を十分にお伺いするのはもちろん、入居後の日々の生活の中から、言葉に表れない本人の要望を読み取っている。	意志疎通が難しい利用者については入居時の各種情報の振り返りや家族などからの情報提供を得るほか、日々のかかわりの中で声を掛け、言葉や表情・仕草などからその真意を推し図るよう努め、利用者本位に検討されている。お茶出しを望まれる方には、見守りを重視しながら、他利用者へのサービス提供をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、暮らしぶりから趣味までを把握し、できるだけ変わらない生活の実現に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中の小さな変化を見落とさず、有する力の維持につなげている。機会があれば家事等を手伝って頂き、職員からの感謝の意を忘れず伝える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎の会議にて、実践されたケアの振り返り、問題点の話し合いをしている。そして今後のケアやケアプランに反映させている。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聴きとり、医師、看護師の意見を含め、関係する職員全員で意見交換を行ない、現状に即した介護計画が作成されている。また、家族への説明、報告等についても基本に戻った対応に努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活歴からケア記録まで、職員がいつでも参考にできるようにしてある。血圧体重変化についてもわかりやすく記録し、ファイルに保存している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況から必要があれば、通院付き添い等、ホームのサービス外についても、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や施設を散策したり、学生ボランティアによる音楽を鑑賞したり、地域資源の利用が豊かな暮らしの実現につながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様(ご家族様)の同意を経て、提携する診療所の定期往診を受けて頂いている。希望があれば、他医療機関受診への協力もしている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援や医師、家族への必要な利用者情報の提供も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師を配置し、健康管理を行っている。緊急時には、毎日(日中のみ)勤務する、併設デいの看護師に協力を仰ぐこともできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・ご家族様・入院先(主治医やソーシャルワーカー)から意見を聞き、本人の望む早期退院につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する家族(ご本人)の希望を、早い段階から伺っている。重度化した場合でも、提携の診療所や巡回の看護師など、対応できる環境にある。	重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後も意志確認を進めながら、最大限のケアに向けた取り組みが行われている。また、医療知識・メンタル面での対応などの職員研修が実施され、体制整備に向け継続的な取り組みが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥など緊急時の対応について、提携医院の医師を招いて、研修をした。このように、全職員が緊急時に向けた技術や意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年1回行っている。消防設備点検は年2回点検している。	避難・通報訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に行なっている。また、防火管理者を中心に2・3F居住者の具体的避難方法の周知徹底を図られるほか、家族や運営推進会議メンバーとの合同訓練を行なうなど、災害時協力者の確保に向けた取り組みが行われている。	消防法に基づく、火災発生時の職員の役割分担は整備されているが、事業所特性を踏まえ、利用者の定時薬やケース記録など非常持出品についての具体的搬出方法や役割分担などを明確にすること、災害時協力者の確保に向けた継続的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場にたったケアを心がけている。特に入浴や排泄といった場面では、プライバシーに十分気をつけている。	利用者の人格を尊重した対応と個人情報の責任ある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮などきめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や食事などは目安の時間があるが、しつこく声はかけすぎず、自由にして頂いている。その他の時間はお好きなように過ごして頂いている。昼夜逆転など生活リズムの崩れには注意を払うが、本人にとって不快にならないような声かけを、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事のお願いをすることがあるが、ご本人のペースにあわせて声かえている。入浴といった場面でも、お声かけで本人の意思を確認してから実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者が定期的に髪の手入れが出来るように、訪問美容師を月に一回呼んでいる。外出時には、入居者様とともに服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまで、入居者様に、それぞれが出来る事を、手伝って頂いている。また同じテーブルで職員も食事をとり、「お客様と職員の共同生活の場」を実践している。	利用者個々の力に合わせ、食事の準備・盛付け、後片付けなど職員と共に行っている。又、メニューについても利用者の希望を取り入れるほか、季節毎のお花見会など、外出時にはお弁当や外食を楽しまれるなど、趣向を凝らした支援をされている。その他、月次報告時や季刊誌などで、家族向けに食事の情報提供も行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが計算されたメニューを基に調理をしている。声かけを工夫し、偏りなく適切な栄養が摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に、ハミガキ入歯洗浄など口腔ケアの声かけ介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンを記録で管理する。できるだけ習慣でトイレで排泄出来るように声かけ誘導をしている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやオリゴ糖摂取にて、自然排泄に努めている。また散歩体操など適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前と午後ともに、入浴が可能。ご本人の意向を考慮しお誘いしている。	入浴時間は設定されているが、できる範囲で利用者の希望に沿い、好きな時に入浴できるよう支援されている。安全面についても、見守りの徹底やすべり止めマットの敷設ほか、利用者個々の力に合わせ、職員2人での介助体制をとるなど配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠前の足浴による安眠支援を行っている。寝付けない時には、ココアやホットミルクを提供し、職員が話し相手となり支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様それぞれが飲んでいる薬を、分かりやすくファイルにまとめている。新しい薬を飲み始めた際には、様子観察をし、変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が「出来る」と自信を持てるように、お手伝いをお願いしたり、レクリエーションにお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが、散歩に出掛けたり、買い物など外気に触れる機会を確保している。日常的に外出の機会を設けている。	隣接大学構内と養豚農家周辺等のコースがあり、利用者の希望に沿った散歩を日課とされている。その他テラスや中庭での外気浴、季節ごとのお花見や紅葉狩り、近隣の公園散策やブルーベリー狩りなど、外出の機会を多く持たれるよう支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、金銭の所持は自由となっている。館内(自販)や外出先での買い物に利用されている。職員は紛失等に注意を払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の求めに応じ、自由に電話やお手紙が出来るように配慮している。海外在住のご家族とは、Eメールも活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝はカーテンを開け日を取り込み、夜は電球色の照明を点けるなど、生活のリズムが乱れないように努めている。楽しい飾りつけをし、気分を和ませたり、季節感を演出している。	利用者にとって不快や混乱を起こさぬよう、室温・音・採光など、きめ細かな配慮がとられている。普通の家らしくを基本とし、初日の出や神社など季節の装飾、創作品の貼り絵や書などが飾り付けられ、明るく開放的で清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファーを利用し、共用空間であっても、人の気配を感じながら、静かに過ごしていただけるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、入居者さまの使い込んだ品物の持ち込みを勧め、居室を馴染みのある雰囲気演出している。	使い慣れた馴染みのソファやタンス、テレビなどが持ち込まれるほか、家族の書道作品や写真、好みの花が飾られるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。又、毎朝掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂や個室等には、案内や表札を設置してわかりやすくしている。また、多少足が不自由でも自由に安全に移動できるように、館内中に手すりがめぐらされている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム健康倶楽部新座

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 2月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災計画として避難・初期消化の対策は行っている。 しかし被災後のケアに対する対策は未整備である。災害時協力者確保とともに、今後の課題となっている。	生活暦の記録が被災後ケアの再建につながった事例がある。人命優先の考えと両立出来る記録物もち出しの対策をする。地域との連携については、引きつづき強化をしている。	持ち出す記録物のリスト作成、持ち出す優先順位の取り決めをする。運営推進会議や地域イベントへの積極的参加を通し、地域との関係づくりをすすめる。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。